

1  キリスト教神学  
第7章 ポストモダンと神学

改訂版『基督教教理入門』第三章

一宮基督教研究所  
安黒務

2  「キリスト教神学」  
概略

- ①
1. 神を研究すること
  2. 神を知ること
  3. 神はどのような方か
  4. 神は何をなされるか
  5. 人間
  6. 罪

- ②
7. キリストの人格
  8. キリストのみわざ
  9. 聖霊
  10. 救い
  11. 教会
  12. 終末

3  第1部 神を研究すること  
概略

- ①
1. 神学とは何か
  2. 神学と哲学
  3. 神学の方法
  4. 神学と聖書の批評的研究
  5. キリスト教のメッセージの今日化
  6. 神学とその言語
  7. ポストモダンと神学
- ②
1. 神についての研究
  2. キリスト教のメッセージの今日化
  3. ポストモダンと神学

4  第7章 ポストモダンと神学  
概略

1. ポストモダニズムを定義する
  1. プレモダニズム
  2. モダニズム
  3. モダニズムに対する不満
  4. 急進的ポストモダニズム
2. ポストモダン時代に神学すること
  1. 急進的ポストモダニズムに対する批判
  2. 建設的なポストモダン神学の諸原理

5  序

1. 本章の目的
2. 本章の概要

3.研究課題

- 6  第1節 ポストモダニズムを定義する  
序 - 1
- 神学において
  - どの程度ポストモダンの？
  - モダン、コンテンポラリーの意味
- 7  第1節 ポストモダニズムを定義する  
序 - 2
1. 近年 - 「モダン」という言葉の意味 - 変化
  2. トーマス・オーデンの定義
- 8  第1節 ポストモダニズムを定義する  
プレモダニズム
1. 宇宙は合理的なものである
  2. 目的論的
  3. 歴史も秩序立ったパターンに
  4. 形而上学的概念・認識的概念が関係していた
- 9  第1節 ポストモダニズムを定義する  
モダニズム
1. アプローチの一致点と相違点
  2. 近代思想 - 合理性・確実性の強調
  3. インマヌエル・カント
  4. ベーコンの思想・ニュートンの思想
  5. ランドル『近代知性の形成過程』
  6. あらゆる事柄を覆い尽くす説明を探求
- 10  第1節 ポストモダニズムを定義する  
モダニズムに対する不満
- アレン: モダン全体の崩壊の四領域
    1. 「自己充足的な宇宙」の問題
    2. 道徳と社会の基盤を見出すことに失敗
    3. 進歩への楽観主義の喪失
    4. 知識は中立的なもの
- 11  第1節 ポストモダニズムを定義する  
急進的ポストモダニズム
- 合理性の基本事項のいくつかを拒否しつつ、さらに急進的に
    1. 「脱構築」
    2. ネオ・プラグマティズム
    3. 新しい歴史主義
    4. モダニティの極端な拡張
- 12  第2節 ポストモダン時代に神学すること

序

- 1.ポストモダン時代への移行の事実
- 2.真剣にポストモダンの見方に備える
- 3.ポストモダンの精神構造

- 13  第2節 ポストモダン時代に神学すること  
急進的ポストモダニズムに対する批判-a
- 1.極端なポストモダニズムの信念には抵抗
  - 2.中心的問題のひとつ - 一貫性をもって主張を維持することの難しさ
  - 3.脱構築を唱導しつつ、脱構築主義者であることは難しい
- 14  第2節 ポストモダン時代に神学すること  
急進的ポストモダニズムに対する批判-b
- 4.デリダのサールへのレスポンス
  - 5.合理主義が制限したので、ポストモダンは合理主義を拒否
  - 6.ポストモダン神学のための洞察
- 15  第2節 ポストモダン時代に神学すること  
建設的なポストモダン神学の諸原理 - a
- 1.五人の目の見えない人たちと象
  - 2.相対主義、多元主義、主観主義
  - 3.外見上の主観性を扱う一つの試み
  - 4.ある程度の謙遜が神学を保持する
- 16  第2節 ポストモダン時代に神学すること  
建設的なポストモダン神学の諸原理 - b
- 5.福音の文化脈化にかかわる
  - 6.共同体の訴え - 客観性を保証しない
  - 7.神学が未信者に提示される